



佐藤クリスタル

国際交流員コーナー

CIR's Corner

2023年8月 - 第15号



皆さん、こんにちは！江別市国際交流員の佐藤クリスタルです。「国際交流員コーナー」とは、私が毎月作成する国際交流や多文化についての記事です。様々な興味深い国際的なテーマを紹介します。

今月のテーマ:国際的なキャンプ

7月29日に、家族と友達と一緒にキャンプに行きました。国際的なメンバーだったので、自分の国と日本について色々話すことができ、とても面白かったです。



まず、キャンプ場を紹介します。小樽市の南西に位置する赤井川村の「アカイガワ・トモ・プレイパーク」というキャンプ場に行きました。赤井川村は山や森に囲まれており、かつての噴火活動で形成されたカルデラ地形の上にある静かな村です。キャンプ場は、かなり混んでいましたが、私たちは少し離れている木の下場所を選びました。木がたくさんあり、近くに川が流れているので、自然がいっぱいでリラックスできると感じました。

今回のキャンプのメンバーは、アメリカ人の私、日本人の夫、アメリカと日本の二重国籍の娘、アイルランド人の友達、ドイツ人の友達、ニュージーランド人の友達で、計6人5か国籍でした。

アイルランド人の友達はピーターと言います。ピーターは5年間札幌に住んでいましたが、

2019年にアイルランドに帰りました。再び日本に遊びに来る予定でしたが、新型コロナウイルスの影響ですっと来ることができませんでした。今は、毎日スケートボードやサイクリングをしながら北海道での夏休みを満喫しています。

ドイツ人の友達の名前はマドレンです。ピーターの紹介で知り合って、コロナ前は5か月札幌に留学していました。その後、札幌にある建築会社でインターンシップを体験し、よくニセコに行っていたと言っていました。今は、ドイツに戻りましたが、ピーターと同じように、夏休みは北海道で過ごしています。

ニュージーランド人の友達はコナーです。コナーは7年前に英語を教えるために初めて北海道旭川市に来ました。何年間か日本で過ごした後、2年間程台湾にも英語を教えに行きましたが、やっぱり日本が好きだったので、再び旭川市に戻りました。先月日本人と結婚しましたが、奥さんはキャンプが嫌いだそうです。なので、今回はコナーが一人で参加しました。



キャンプのメンバー：娘、コナー、マドレン、ピーター

この国際的なメンバーは、キャンプ場に着くと、日本人以外全員靴を脱いで、裸足で芝生を歩いていました。マドレンは「裸足で芝生を感じるのはすごく気持ちいい」と言っていました。日本人の夫に、なぜ芝生を裸足で歩かないかと聞くと、「汚いから」と答えました。ピーターは、アイルランド人は靴を履いたままでも家に入るの、汚れをそんなに気にしていないと言っていました。マドレンとコナーはそれを聞いて、ショックを受けていました。ドイツでもニュージーランドでも家に入る前には、日本人と同じように、靴を脱がなければならないそうです。アメリカ人はアイルランド人と同じく、基本的に靴を履いたままでも家に入ります。しかし、私もピーターも、日本の習慣に慣れ、家に入る時、靴を脱ぎます。ピーターはアイルランドに帰っても、家に入る前に靴を脱ぐと言っていました。ちなみに、私の娘は、最初靴を脱ぎたくないと言っていました。お父さん以外全員裸足になっていたの、結局娘も脱いでいました。「気持ちいい！」と言いながら裸足でキャンプ場を走り回っていました。



キャンプでの食事は、定番の焼き肉と焼き野菜でしたが、夫の自慢のキャンプ料理「ラザニア」も食べました。ラザニアは、イタリアの pasta 料理で、深さのある耐熱容器に、ミートソース、ホワイトソース、板状の pasta を何層か重ね、最上段にホワイトソースとチーズを乗せて、普段はオーブンでこんがり焼きますが、キャンプではダッチオーブンで作っています。濃厚なソースとチーズが熱々で、美味しかったです。美味しすぎて、写真を撮る前に食べきってしまいました。そして、昨年8月の記事で、「スモア」の紹介をしましたが、今回のキャン

プで友達に作り方を教えました。アイルランドとドイツとニュージーランドは、キャンプでスモアを食べる習慣がないそうです。



夜になったら、娘が寝て、夫が「キャンプバー」を開き、皆にハイボールやジンソーダを作っていました。星空の下で美味しいお酒を飲みながら、日本での辛いことや楽しいことを語り合いました。マドレンは、日本語を勉強するために来日しましたが、日本人はいつも英語で話しかけてくれるので、日本語の勉強がなかなか進まなく、英語しか上達していないと言っていました。外国人だから英語で話しかけられたり、日本人と違う扱いをされたりするのは少し嫌だと言っていました。しかも、マドレンは女性なので、日本で性別による差別を受けたことがあると言いました。日本は、欧米と比べて、女性の立場が低いので、ドイツ人の女性にとって住みづらいそうです。ピーターもマドレンの意見に同感で、「日本で、何回か女性を男性のわいせつ行為から守ったことがあります」と付け加えました。女性に対するわいせつ行為や性暴力はどこの国でも問題ですが、日本では「女性専用車両」が提供されている程、特に大きな問題になっていると思います。その他に、コナーは、「日本はルールが多過ぎて分かりづらい」と言っていました。一方で、マドレンとピーターは、ルールが多く、日本人は大抵ルールに従うからこそ、日本は平和な国だとも思っています。もう一つの辛いことは、日本人が働きすぎると全員が(日本人の夫も)思っています。ピーターは「せっかく日本に遊びに来たのに、友達が仕事で忙しくて都合がつかない」と言いました。



夫の「キャンプバー」

日本の良いところも多く話しました。キャンプ場にいたからかもしれませんが、全員日本の自然が大好きだと言っていました。「アイルランドの山より壮大で、迫力がある」とピーターは言いました。その他、マドレンは日本の伝統的な文化が好きで、着物の着付けや茶道をしていました。コナーは、日本に来る前のイメージは全国が京都のような伝統的な文化だと思っていましたが、北海道に来て、違う日本に触れることができ良かったと思っています。皆は日本の便利さも気に入っているようです。例えば、トイレ、自動販売機、コンビニ、銭湯や温泉がどこにでもあり、自転車で北海道を旅しているピーターにとって有難いことです。マドレンはコンビニのお弁当や食べ物の量が丁度いいので残さずに食べきれると言っていました。居酒屋で料理が大皿で出てきて、皆でシェアして食べる文化が好きだとピーターが言っていました。コナーは、外でお酒を飲む文化が「ナンバーワン」だそうです。全員は飲み放題とカラオケが好きなメンバーなので、何回も一緒に行ったことがあります。



←飛んできた虫。見たことがなかったので、写真を撮って調べてみました。「ヘビトンボ」らしいです。

会話しているうちに、随分遅くなってきて、他のテントの点灯が消えていることに気づきました。「日本人はキャンプで早く寝るね」とピーターが言いました。その時、ウサギのようなピョンピョンとした動きの懐中電灯がトイレの方向から見えてきて、「この人、何をして

いるの？」と全員不思議に思いました。マドレンが話しかけたら、ウサギのマネをしていたのは30代の日本人男性2人でした。「酔っぱらっていて、変な走り方でごめんなさい」と謝りに来ました。「いいよ！一緒に飲もう！」とマドレンとピーターが2人を誘いました。夫はまた「キャンプバー」に立ち、ハイボールをおごりました。そして、男性2人は、自分のテントから小樽ワインを持ってきてくれて、皆で飲みました。その2人は、札幌にある大学で働いていると言っていました。1人は言語学の専門だったので、英語、日本語、たまにドイツ語で会話していました。別のグループの初めて会った人と楽しく飲んだり会話したりして、国際交流ができて良かったと思いました。そして、日本人はとてもフレンドリーだと改めて感じました。

次の朝、ご飯を食べて、娘と川遊びに行きました。浅くて、緩やかに流れていたのので、娘にちょうど良かったです。マドレンとピーターも川に全身をつけて、「冷たくて爽やかな感じ」と言っていました。もう一人日本人の子どもも川遊びをしていたのに、お父さんは川に入らなかったため、日本人は川で泳ぐ習慣がないのではないかと思いました。



川遊びの後に、キャンプのものを片づけ、帰りに赤井川村にある温泉に行きました。私は16年間日本に住んでいるので、温泉に入ることが何回もあり、マナーが分かりますが、今回は初めてシャンプーが置いていない温泉に行きました。私もマドレンもどうすればいいか分かりませんでした。洗面器や椅子がたくさん重ねてあった場所があって、そこに一本のシャンプーボトルが置いてありました。「ここの洗

面器と椅子は自由に使ってもいいので、ここのシャンプーも使ってもいいのかな？」と二人で悩みました。結局、私がそのシャンプーを取り、私とマドレンと娘が使いました。使った後に元の場所に戻し、温泉に入りました。カルデラの影響でとても熱く感じましたが、気持ちよく入りました。上がった後に、洗面器と椅子の所を見たら、私たちが使ったシャンプーがなくなっていたことに驚きました。「誰かのシャンプーを使っちゃった！」私とマドレンは大変恥ずかしかったです。16年間日本に住んでいても、未だに分からないことがあり、時々ミスをしています。

昨年の8月にも書きましたが、私はアメリカであまりキャンプに行きませんでした。私のキャンプ経験は、ほとんど日本のキャンプで、外国人の友達と行くことが多いです。マドレン

が言っていました、もう一つの日本の良いところは、国が違っていても、日本に住んでいる外国人同士がすごく仲良くなり、母国でできない友達が日本でできるところです。キャンプで様々な国籍の人が集まると、キャンプでしか味わえない料理や興味深い話を楽しむことができます。もしキャンプに行くことがあり、外国人のグループと会ったら、交流してみてください。とても賑やかで、絶対楽しいです★



江別市に在住している外国人の紹介

江別市には800人以上の外国人が在住しています。江別市に住んでいる友達、タイロン・リー・トリッグスさんが「国際交流員コーナー」を読んでくれていますので、自己紹介を書いてくれました。



こんにちは！タイロン・リー・トリッグスです。美しい北の島の北海道にある素晴らしい江別市に住んでいるオーストラリア人とアフリカ系アメリカ人のハーフです。4年以上江別市に住んでおり、大体20分で山、森、都会、海にも行けるので、探検しやすく、快適な場所だと思います。来日前は、オーストラリアのシドニー市の横にある有名なボンダイビーチに住んでいました。「ブリッジクライム」という会社にツアーガイドとして勤めていました。「ブリッジクライム」はシドニー市のアトラクションとして名高く、有名なシドニー・ハーバー・ブリッジのクライミングツアーを提供しています。海拔134メートルの橋のてっぺんから新婚旅行で来た日本人などのお客さんはシドニー市で最高の眺めを楽しみました。初めてシドニー市を訪れる観光客は必見です！今は、オーストラリアで出会った日本人の妻と子ども二人と一緒に江別市で暮らしています。40年以上刑事を務め、生涯江別市に住んでいた妻の亡き祖父の家に住んでいます。将来は、江別市の多様でユニークな飲食店を増やしたいと考え、本格的なオーストラリアのハンバーガーを作って江別の人々に提供したいと思っています。EBRIの周囲で店をオープンしたいと思っています。ぜひお会いして、オーストラリアの雰囲気味わっていただきたいです。どうぞよろしくお願ひします。



お問合せ先

教育部 生涯学習課 国際交流員
〒067-0074 北海道江別市高砂町24番地の6
Tel:011-381-1049 Fax:011-382-3434

写真:佐藤クリスタル、コナー・セオ、ピーター・バクリー、タイロン・リー・トリッグス、

irasutoya.com